

北海道十勝沖の上位層気楼について

発表者 星 弘之
北海道・東北層気楼研究会

◆はじめに

2005年6月4日の北海道新聞に「視界360度ユラユラ十勝沖でしんきろう」が掲載されていた事をインターネットで知った、層気楼の画像は山をナイフで水平にカットしたようなテーブルマウンテン状だった。

北海道庁を通じて漁業取締船「ほくと」の乗組員と連絡をとり画像データの提供を受け、層気楼発生時の様子を確認したので皆さんに発表したいと思います。

◆北海道新聞 6月4日版

■環境・自然・科学 -バックナンバー(06月04日)

[本日のニュースに戻る](#)

06月04日

視界360度ユラユラ 十勝沖でしんきろう【写真】 2004/06/04 15:00



【広尾】全道的に好天に恵まれた三日夕、十勝沖の太平洋上を航行中の道の漁業取締船「ほくと」(小山内正俊船長、一〇九トン)が、周田三百六十度にわたる珍しいしんきろうと遭遇した。

毛ガニの密漁を取り締まるため、三日朝に釧路港を起航。午後五時ごろ、十勝管内広尾町の沖合約十キロ付近を航行中、周田の視界がユラユラと変化し始め、そのうちしんきろうが船のあらゆる方向に現れたという。

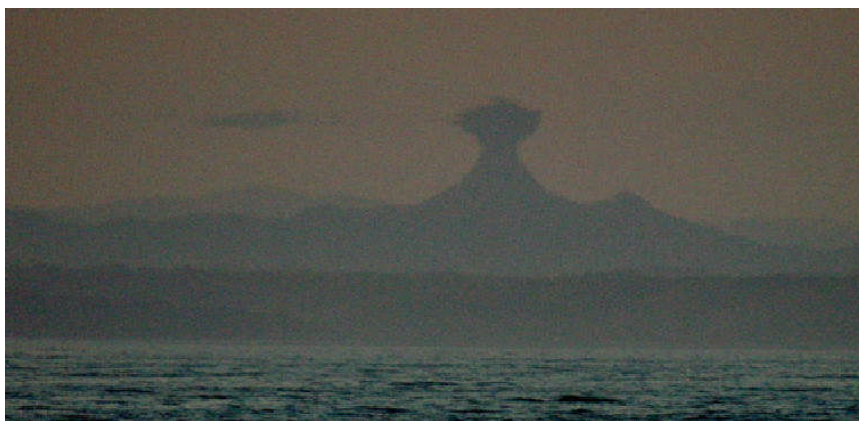
小山内船長は「北海道沿岸を航行して三十年以上になりますが、初めて見た光景。アフリカのサバンナのような風景などが広がって夕焼けと相まってとても幻想的でした」と話す。日没までのおよそ二時間にわたってしんきろうが見られたという。

<写真:道取船ほとから撮影されたしんきろう=3日午後6時30分、十勝沖(「ほくと」提供)>

環境・自然・科学 見出し一覧

- ・ 視界360度ユラユラ 十勝沖でしんきろう【写真】 2004/06/04 15:00
- ・ 鹿茸電池処理、イッキに信増 国内最大規模の大型培養炉が稼働 イトムカ漁業所【写真】 2004/06/04 01:00
- ・ 世界遺産登録へ来月知味を調査 ユネスコ諮問機関 2004/06/04 01:00

◆北海道庁提供画像



◆質問事項 (一部)

Q: レーダーは常時と変わりなく海岸や船舶を捕らえ続けられたのか、変な反射でレーダーが機能しなかったのか?

A: 異常伝播が発生、通常では捕捉不可の遠距離物標も捕捉してた。

◆伝搬と層気楼観測

電波の伝わり方は周波数によって大きく異なり、様々な自然現象の影響も受ける、同じ周波数帯でも常に一定というわけではない、VHFやUHFなどの高い周波数に見られる伝搬は、気温、気圧、湿度などの気象条件の影響により変化する。

沖縄のアマチュア無線家の仲嶺氏(JR6QYV)によるとは「V・UHF帯の異常伝搬は、天気図で十分予測できる。」と言っている。

今までは層気楼というと目視や天候状況の把握などにより観測、予測しているが漁業取締船「ほくと」の乗組員の証言に有るように層気楼の電波による観測が可能ではないかと推測する、今後何らかの方法により電波による観測が出来るか調査してみたい。

以上